

D—6 主婦の家政意識について

梶山女大 高田 ひさ
山田家政短大 森川 きく
金城学院大短大 ○生川 浩子

1. 本研究は家庭生活における主婦の家政意識が前回調査時よりどのように変化しているかを知るために行なったものである。

2. 質問紙法により前回と同じ名古屋市を中心とした地域の主婦を対象に調査を行なった。調査内容は、1) 家事労働に対する主婦の考えや家事労働の価値について 2) 主婦が職業を持つことについての考え 3) 家庭生活に関する事柄の決定について 4) 親(老人)の世話についての実状等を、主婦の年齢層有職者(何等かの勤労で収入を得ている者)無職者(家庭の主婦専業者)によってその考え方に差がみられるかを調べ、更に、第1回(昭和37年)第2回(39年)の調査結果とも比較考察を行った。

3. 1) 家事労働は主婦専用の仕事であるとの考えが依然として強い。また、家事労働の価値を認めようとする考えが僅かながら増る傾向がみられた。2) 経済事情から、家庭内で仕事を持つ主婦が増加している。3) 家庭内の事柄は、主婦が主になり夫婦で話し合って進められることが多い。4) 本調査では、親(老人)と同居し世話する者が多くみられた。総括的にみて家庭生活に著しい変化はみられなかった。しかし、今日の家庭生活のあり方としては、主婦の経営能力をより向上させる必要のあることを感じた。